

編 集 後 記

今号の雪氷いかがでしたでしょうか。編集作業にあまり貢献できていない私がこう切り出すのも恐縮ですが、分科会担当者も編集後記をとのことですので、雪氷末尾を汚すことをお許し下さい。

さて、雑な研究はしたくないものです。とはいえ、雑務は増える一方、大学業務の一翼である教育は蔑ろにしたくない、家族との時間やお昼の運動も削れない、菜園の世話の手抜きも限界です。そこで、一人時差ぼけと言われながらも、睡眠時間帯をシフトすることで時間を捻出するようになりました。ものを考える時間ができると、常に頭をよぎるのが先人は賢いなぁとの思いです。「すごいアイデアを思いついた」と試算してみれば、幾人もの先人が既に解釈を論文で示していたり、「天才かも？」と自分の仕事に酔いしれていると、今まで自分の理解が及ばなかっただけで、遙か昔に執筆された教科書に詳細が記されていることに気づかされるが多々あります。「こんな所に書いてあるじゃん、もっと早く教えてよ(?)」「自分だけわかってるんでないの?ちゃんと後続がわかりやすい形で書き残しておいてよ」などと仕方ない文句が浮かんだりもします。それ故、プロジェクトやら評価

やら忙しく言われる中でこそ、丁寧に検証したアイデアをわかりやくす残す努力は大事なと思う次第です。

年頃故か、雪氷以外の雑誌でも編集作業に携わる機会が増えてきました。論文担当だったり、版組までしたり、とやっていると、雪氷は内容のバランスや紙面の仕上がり、編集委員の作業の質などなかなか良い雑誌だと気づかされます。もう一つわかったことは、皆が記事を寄せる雑誌(学会)は安泰だということ。インパクトファクターがどうか、海外紙に出せとかいう要求が厳しいこともわかりますが、いろいろ考えている各人が何年かに一報、丁寧に練られた考えをわかりやすく提示する場となると、雪氷もますます面白いな、などと思います。

春先の日照がやたら少なかったり、梅雨明けと同時に真夏日が続いたり、と今年もおかしな天候です。雪氷シーズンはどうなるのでしょうか。雪氷研究の進捗にかかわらず、研究対象には事欠かない様子です。この号が届いた後には、今年も雪氷研究大会です。これを機に皆さん、雪氷本誌も盛り上げていきませんか?

(三重大学生物資源学研究科 渡辺晋生)